

# 職員研修だより

木内先生:生徒がよく聴き合っていました。「深い学び」の追求をこれからも続けていってください。生徒だけでなく、教師も学び続けましょう。

中央中等教育学校  
授業研究・FEWC推進部  
学年研修② 第3号  
令和元年7月17日(水)発行

学年別グループ協議で出た意見をまとめたものです。



## 1年2組「数学」蜂須賀将太先生

- 生徒たちは、いろいろな視点で表を見て、課題に取り組んでいた。主体的に見つけようとする姿勢がとても良い。
- 新しく何かを見つけるには、答えが多く、意見が言いやすい広がりのある課題が大切だとわかり、課題設定の重要性を学んだ。
- グループ学習のタイミング、ホワイトボードの書き方等、生徒の実態に合わせて工夫が見られた。
- 生徒たちから自由な発想が生まれ、授業の終わりにはまとめにいけないことで、さらなる学びが続いていた。



## 2年3組「技術」坂上瑞歩先生

- 見えていない生徒に指摘したり、教えあったり、グループで支え合っていた。
- 互いにより良いものにしようとアドバイスがたくさん出ていて、自分では気づけないことにも目を向けることができた。
- 何のためにやっているのか、準備がきちんとしてあったから、生徒たちはよく動いていた。
- 今までやっていることが入っていないAさんに対して、Bさんは生き生きと教えていた。
- グループ編成では、6人を4人にしたのが良かった。(6人は2-3の実態には多く感じる。)



## 3年1組「英語B」A.レチャー先生

- 知っている単語を使って粘り強く投げかけ、周囲の働きかけが協働的になっていた。
- 原稿に頼らず、互いが英語を使っていたからこそ、学び合いになっていた。
- 日頃と比べてみたときに、意欲的な活動が見られた。
- 全員が同じトピックだから、より深まり、より活発になっていた。
- 言いたかったけれど言えないことで、自分で考え、どう表現していくべきかを振り返ることができると感じた。



## 4年1組「家庭」星野康弘先生

- 教師の問いかけに対して、幅の広い解答が見え、個々の学びの広さや深さを感じられた。
- 国語、道徳などと教科横断の学習ができるヒントをもらったと思う。
- 参観の仕方(見る視点)が大切だと思う。
- 生徒は問いに対する答えを探そうとしていたが、どうしてそう思うのかをもっと掘り下げると多様な意見を共有できると思う。
- Cさんの表情、Dさんの文章力等、他教科とは違う表情や集中力があつた。
- EくんFさんの変容の様子を聞くことができ、普段の授業だけでは気づけない生徒理解のヒントを得ることができた。



## 5年1・2組「数学B」内田靖子

- 難しい課題に対して、一人ひとりが考え抜きながら他者と協働して活動できていて、そういう活動の時間を増やすことが大切だと思った。
- 全員が集中力を切らさずに、最後まで考え抜いている様子があつた。
- グループ学習においては、様々なレベルの生徒がいたほうが効果的である。
- “think aloud” 素朴なアイデアをぼそっと口にし、思考過程を言語化して外化させることで、考えを進めることができていった。
- 成績不振のGくんが積極的に他者に数学を教えている。堂々として生き生きとした表情をしていたのに驚いた。
- 個人が躓いているところを共有化することで、全員を深い理解に導く授業になる。



## 6年2組「英語」武内ひろみ先生

- 普段あまり話さないような生徒でもペアワークで発言し、お互いの理解を確認することができていた。
- グループワークが上手くかないところも教師が声かけをすることで、少し動きが出た。
- 理解が不十分なところがある生徒が、ペアの助けを借りて理解を深めることができていた。
- グループ分けの仕方を工夫すべき場合もある。(本校の生徒はよく英語を話すので、今まで工夫をしたことがないため)
- Hとのペアは発言が苦手で見つめ合う。Jくんは盛り上げようとするが、周囲が乗らずに沈む。Kさんの登場で活性化された。

※次回の学年研修は、9月17日(火)です。よろしくお願いいたします。

